

人として何が大切か、真の幸せとは何か

－品質工学の問題解決手法によるアプローチ－

2023年7月23日(日)

折笠 公德

報告内容

1. 背景
2. 経緯
3. 概略検討(要因解析) 連関図によるアプローチ
4. 「思想検討」 系統図によるアプローチ
5. 関連性の高い「思想」の選択
6. 解析の進め方 図式解析
7. 哲学 「人」を知ることは哲学を知ること
8. 宗教 宗教の探求 もっと身近なものにするために
9. 心理学 心理学に対する思い
10. 教育学 人の成長と深く関わる教育学
11. 文学 文学は生きることを教えてくれる
12. まとめ

文学愛好会の皆様にご報告したいこと

1. 複雑な事象の解析アプローチ方法
2. 恐らく誰もがやったことのない前例のない試み
3. 若干、能書きや屁理屈っぽいところ
4. 芹沢光治良先生が「人間の運命」の中で
全てを語っている

1. 背景 「人として何が大切か、真の幸せとは何か」の追求

自己実現のテーマ

私の自己実現するためのテーマであり、一生の「志」である「人間らしく生きる」を追求するための大きなアプローチの一つ

答えを出すための行動

約40年間答えを出すために、仕事にベストを尽くし、いろいろな人に出会い、本を読み、宗教を体験し、何事も現地現物で行動し、体を鍛え、書籍を2冊出版してきた。芹沢文学にも答えを求めた

答えのイメージ

ここ数年、宗教、歴史、文学、旅、日常の人間関係、筋トレ、その他を通じて何か答えは同じ方向にあるのではないかと思えてきた
答えはうっすら見えている

何故、今なのか

新型コロナ禍という世界を一変するようなだれもが思いも寄らなかった一大事や世界史を変えたロシアとウクライナ戦争など先が全く見えない時だからこそ、じっくり考え行動する具体的な方策を導く必要があると思う
だれでも、いつでも、どこでも、なんでも、なぜでも、どのようにしてでも、一度しかない人生を後悔しないために……。

2. 経緯 「品質工学の問題解決手法によるアプローチ」に行きついた理由 3/15

問題点

いろいろな要因が複雑に絡み合った幹のようで、考えれば考える程わからなくなってしまう。そこで、一旦この命題から数か月間離れることにした

ある日、思い浮かんだのは

「系統立てて考えたことがない」だった
更にエンジニア時代を思い出し、新製品の開発をしていた輝かしい頃と合わせ市場品質問題(一言でいうと不具合)を起こしてしまい、毎日被告人の如くお立ち台に立ち解決策を大汗かいて検討していた頃が蘇ってきた

道具として

その時に使っていた道具はがQC的問題解決アプローチ(QCストーリー)で、事象を論理的・統計的な改善を行うもの
※QC=Quality Control 品質管理のこと
人文科学的な命題に対し恐らく誰もがやったことのない前例のない試みである

どのようなものか

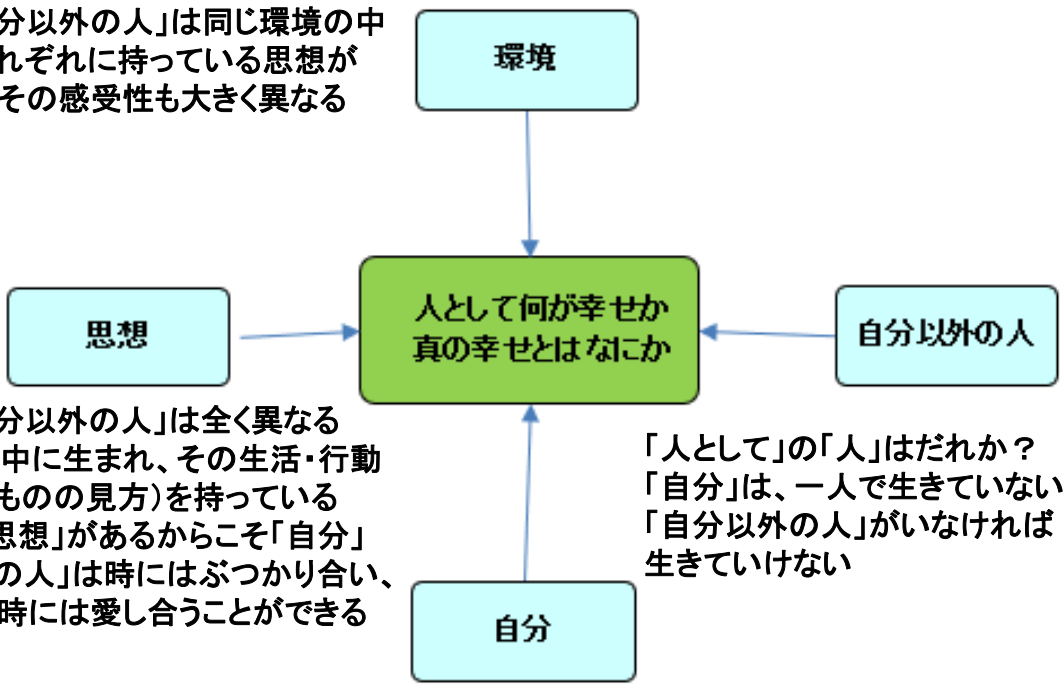
山登りに例えられる。目標(山頂)を設定して、登頂ルートを模索しながら、課題達成に向けて進んでいく。つまり、いままでに経験のない活動のことであり、新製品開発や生産性改善など、現状よりも高い水準を目指す場合に適用される

3. 概略検討(要因解析) 連関図によるアプローチ

◆連関図は原因と結果や目的と手段などの関係が複雑でかつ絡み合っている場合、これらの相互関係を図解することによってわかりやすく表現するもの

(1) 一次要因解析 (4つを選んだ理由)

「自分」と「自分以外の人」は同じ環境の中にも、それぞれに持っている思想が異なるため、その感受性も大きく異なる

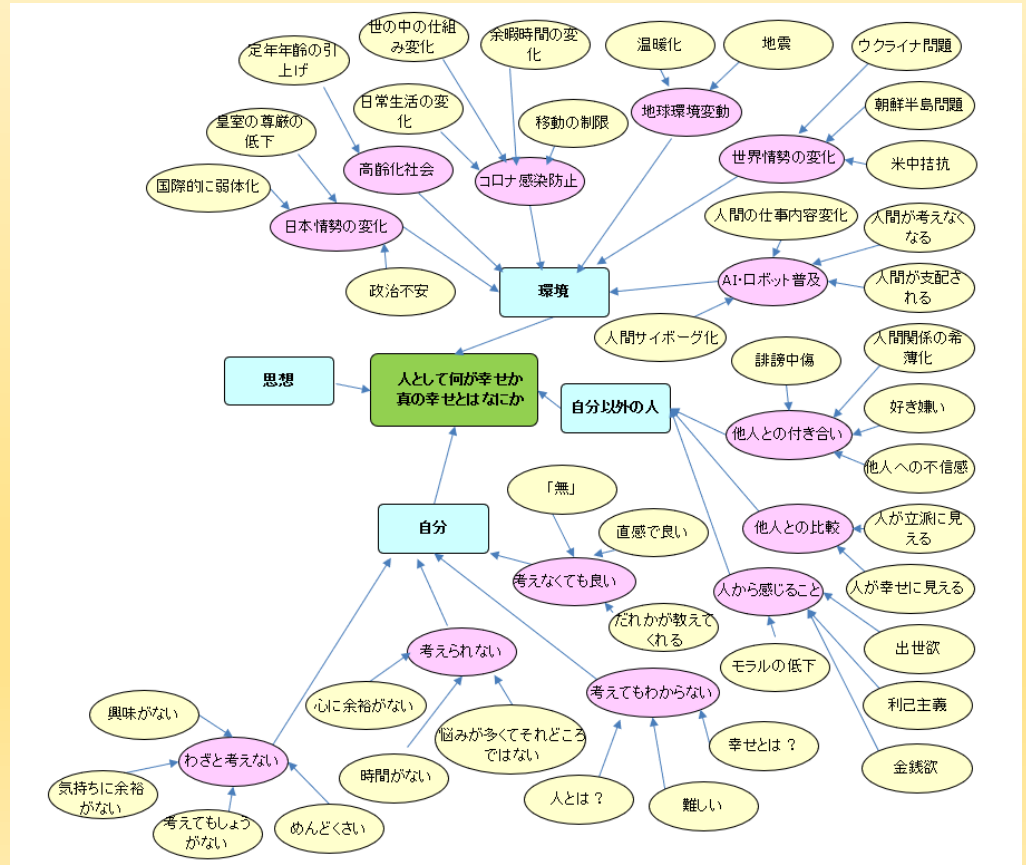


「自分」と「自分以外の人」は全く異なる思想(生活の中に生まれ、その生活・行動を支配する、ものの見方)を持っているこの異なる「思想」があるからこそ「自分」と「自分以外の人」は時にはぶつかり合い、憎しみ合い、時には愛し合うことができるのだと思う

「人として」の「人」はだれか？
「自分」は、一人で生きていけないし、「自分以外の人」がいなければ生きていけない

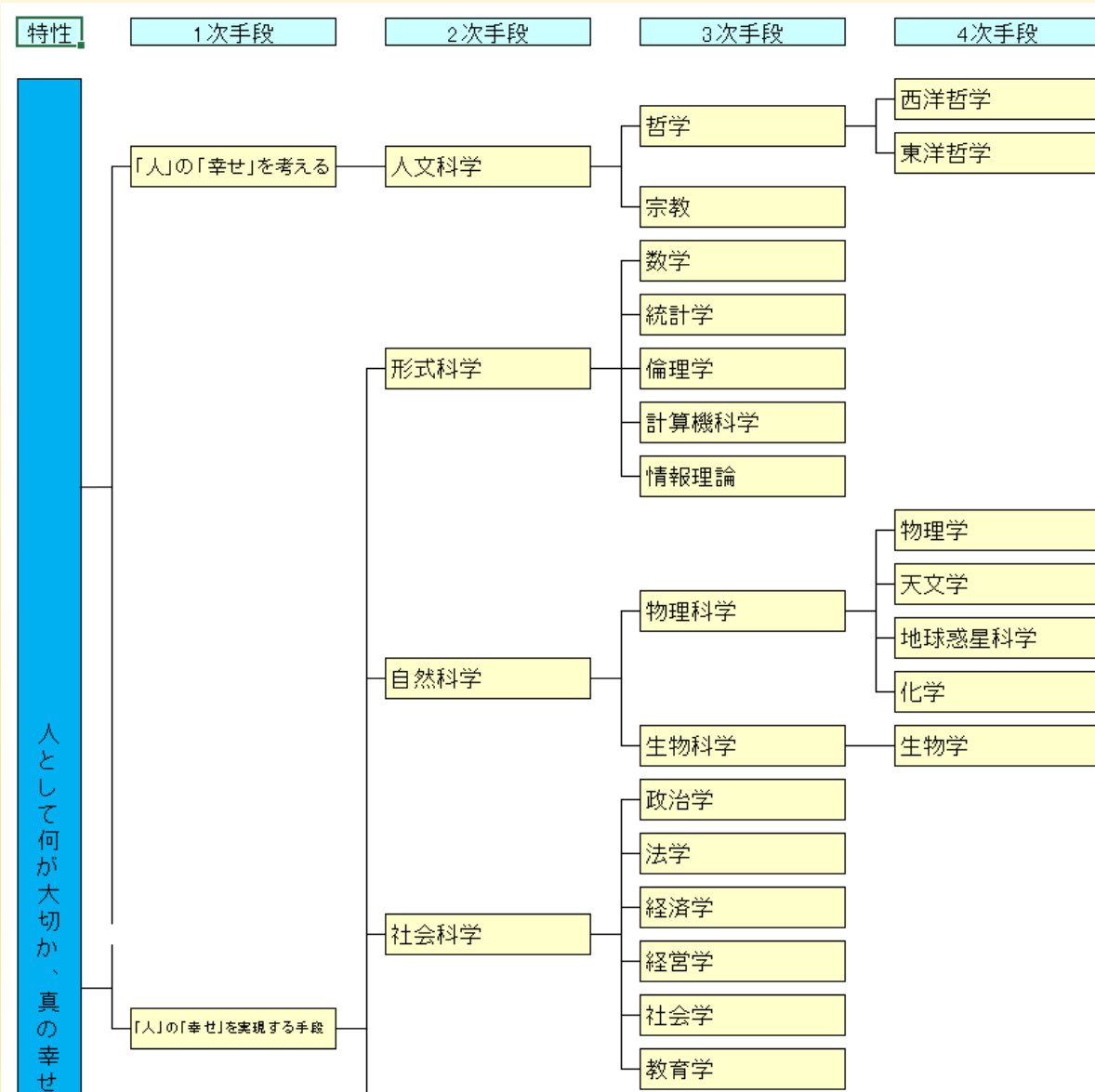
(2) 二次、三次要因解析

- ・一次要因解析では「思想」が大きな支配要因となることがわかった
- ・ここでは「自分」「自分以外」「環境」を次項の解析のための要因出しを行う
- ・「思想」については別アプローチにより深堀する



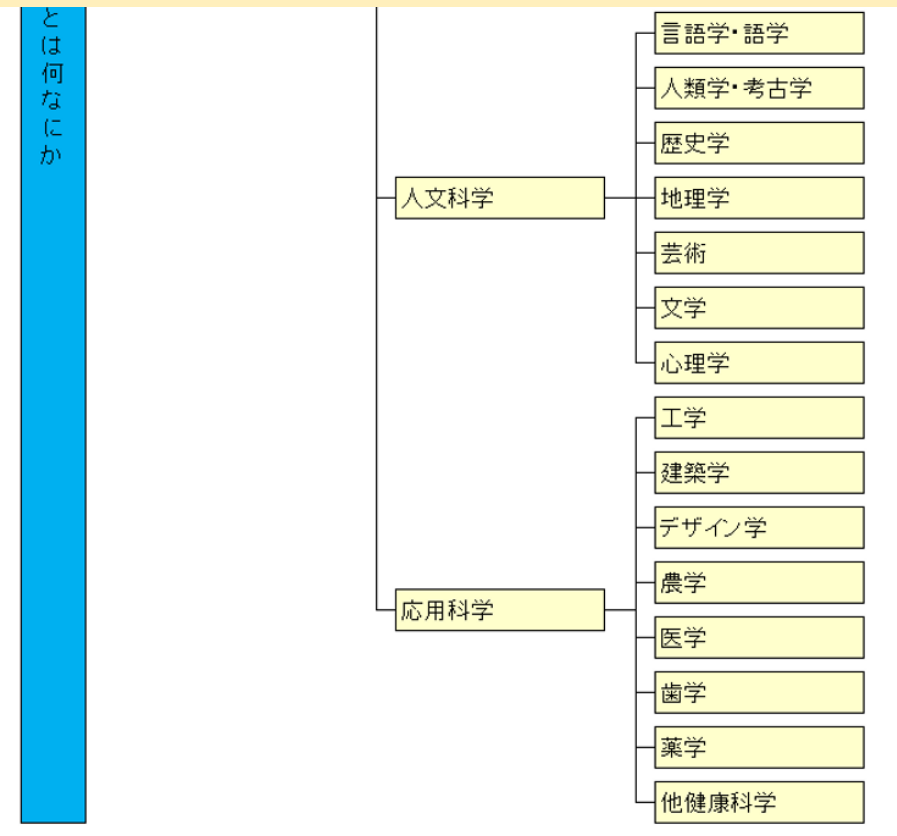
4. 「思想検討」 系統図によるアプローチ

◆系統図を使って思想の分類を実施



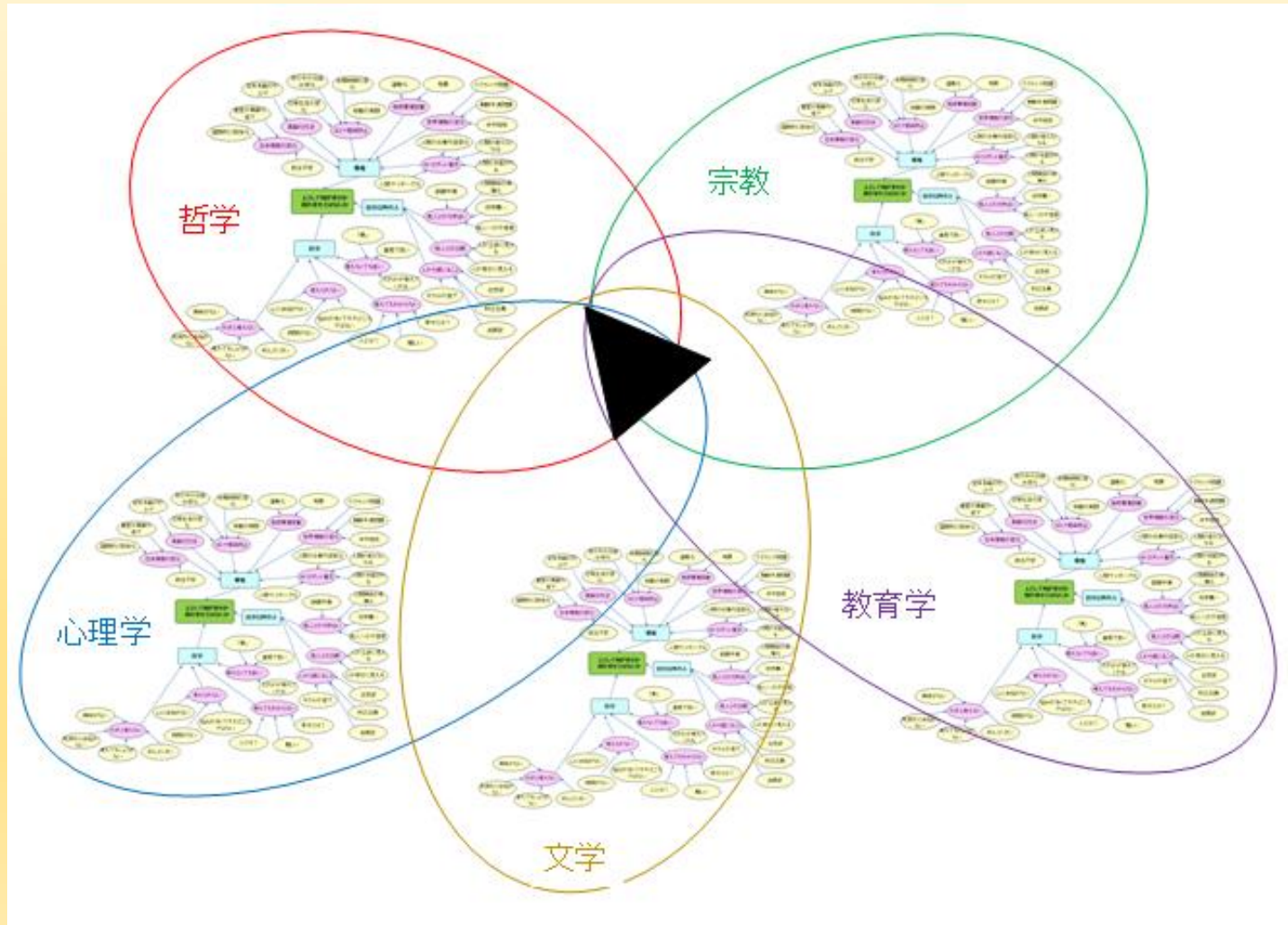
大分類（1次手段）

- ・人の「幸せ」を考える → 哲学、宗教
 哲学、宗教は、「幸せ」を定義し、人はどう、「幸せ」に生きるかという問いに向きあうもの
- ・「幸せ」を実現する手段 → それ以外の学問
 医学は「健康」から、工学は「モノづくり」から、経済学は「富(資産)の循環と分配」から、法学は「世の中のルール」から、教育学は「人を育てること」から、音楽絵画、文学などの芸術は「表現とその解釈」から、「幸せ」を実現しようとするもの



6. 解析の進め方 図式解析

思想の哲学、宗教、心理学、文学、教育学の大きな括りの中で、自分、自分以外、環境の面での「人として何が大切か、真の幸せとは何か」の要因をピックアップしていき、最終的なのは▲の解を求めていく。▲の解を**超重要事項**、**共通事項**とする



7. 哲学 「人」を知ることとは哲学を知ること

超重要事項、共通事項

「人」は本当に素晴らしい

「人」を知って感動できる自分は幸せだと思う。よって私は「人」を知ることとは哲学を知ることだと思ってる。「人」は計りしれない無限の力を持っていると思う

手を合わせたくなる隣人

今まで名のある哲学者、宗教家、歴史的人物、著名人から「人」を知ろうとしていた。ところが廻りに目をやると手を合わせたくなるような、おじいさん、おばあさん、おじさん、おばさんがいっぱいいる。体から出ている力、「人生を生きてきた！」という力をものすごく感じる。仏教とか、信仰とか、宗教とか、全く知らない人でも、人間的に「この人、すごいな」と思わざるを得ない。自分の生き方が薄っぺらいと反省しまう

市長の家に本をPRに行く

近所のおばさん。思いやり、度胸、行動力、まさしく心に染みる「利他の行動」だ。自分は普段、能書きばかり垂れているが、人のためにこのような「利他の行動」ができるだろうか？人は頭で違うんじゃないかなと思いつつも、相手の社会的地位や収入や学歴などでその人の価値を決めてしまう。そうじゃないんだよ。人の価値は行動にあるんだ

「こびっとし〜」

春、隣のおばさんがみょうがの苗をくれた
夏、みょうが採れる前に亡くなってしまった
心臓病だった。自分が作ったみょうがを食べさせて血流を良くしてあげたかった
「こびっとし〜」と今でも隣から聞こえてくる
「こびっとし〜」は山梨弁。しっかりするんだぞ、しっかり生きるんだぞ！

仮設『宗教は、人間が人間らしく、尊厳をもって、心豊かに、それぞれが協力し合って、生きることを教えるものである。』
仮説を実証するために、主要宗教について探索の旅をして、現地現物で経験し、宗教とは何かを知ることにした

超重要事項、共通事項

神道

神道は哲学・道徳・生活規範・宗教の複合体と考える。自然と調和し祖先を含めた人同士が繋がりがあい生きていくという日本の歴史、文化、倫理、秩序、生活を示し、生きることを教えている

仏教

仏教は生きることを教える宗教そのものである。頭で知識を吸収し、体を鍛えて、心に信念を持って、人として正しい行動ができることを目指す。人として正しい行動ができる様になるための手段を具体的に示している

天理教

天理教は、教え、祭典、教育、文化、行動から生きることを教えるものとして日本人に適した宗教であり、人間学、道徳心に則していると考えられる。ただし、一新宗教にしては規模が大き過ぎ、至るところで大きな財力を感じる。

創価学会

創価学会は、生きることを教えるものという人間臭さは感じられない。一新宗教にしては規模が大き過ぎ、至るところで政治的大きな財力を感じる。

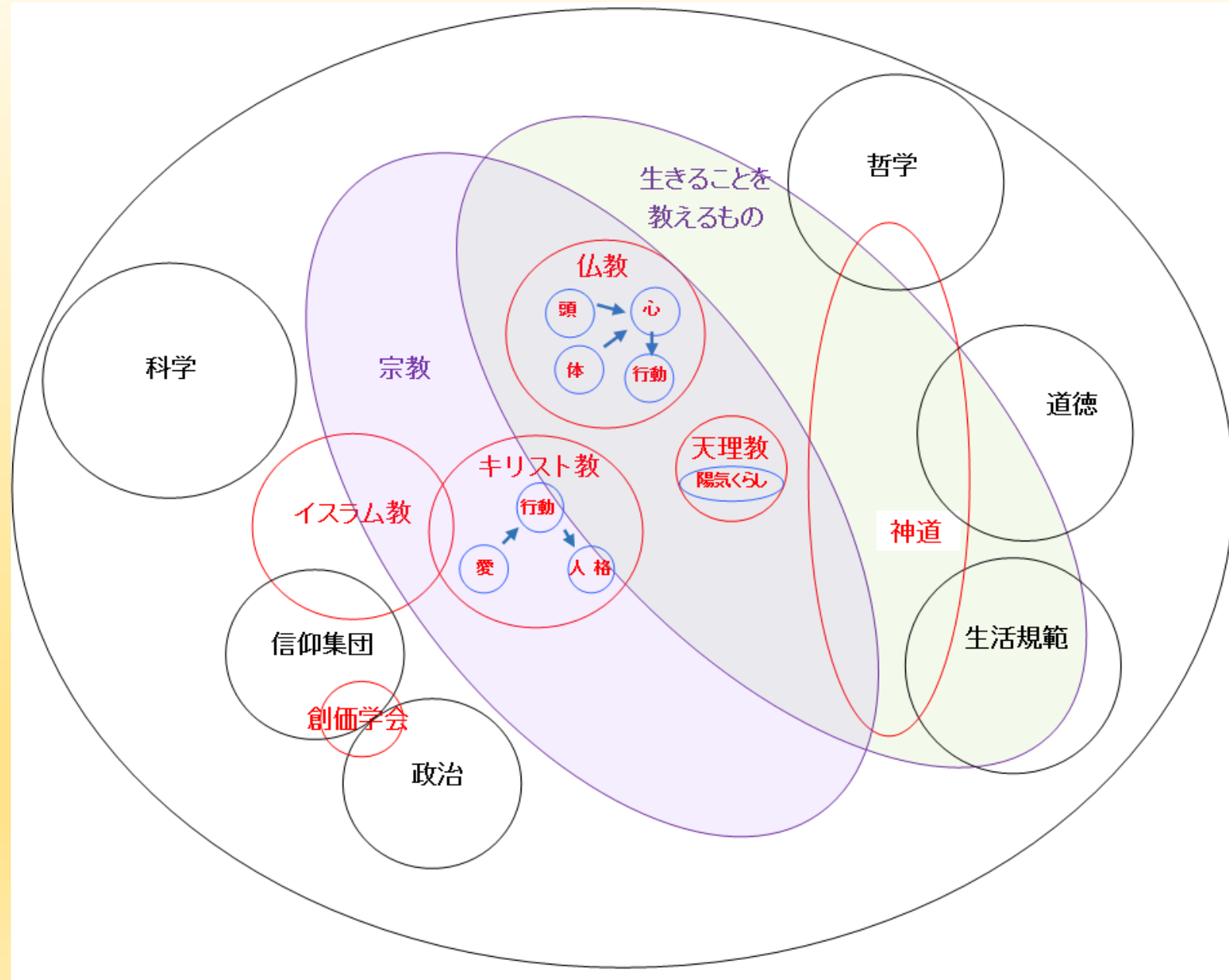
キリスト教

キリスト教は、聖書を深く読み、イエス・キリストを深く信じ、人を信じ、人を愛し、行動をすることが生きることだと教える。ただし、人として正しい行動ができる様になるための手段は具体的に示れていない

イスラム教

イスラム教は宗教と言うよりも信仰集団に近く、儀式を重んじる。生きることを教えるものという人間臭さが感じられず、天国へ行くための手段であるように感じる

参考 集合図



9. 心理学 心理学に対する思い

超重要事項、共通事項

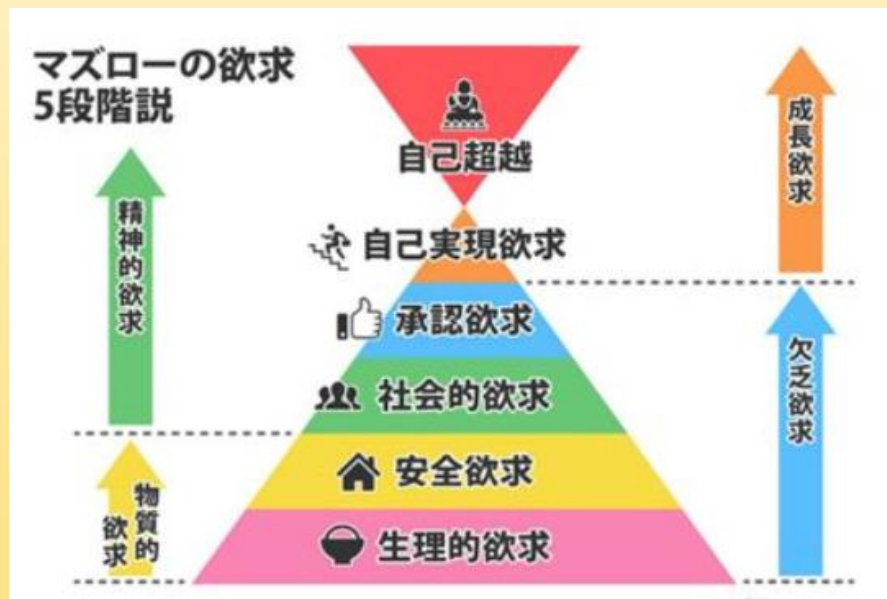
アプローチ方法

命題に深く踏み込むために心理学の書籍を読み直し又は新たに読み込み、短期間にこれだけの同じテーマの書籍を読んだのは初めて

心理学は抽象的な堅苦しいものと思っていたが、読み進めるうちにとっても具体性があり、我々の身近な悩みを解決する道筋が示されている部分も多々あることがわかった

マズロー心理学

超有名なのが欲求5段階説



人間はいくつになっても成長するとし段階的に明確にした健康的で前向きで明るい

第5段階の自己実現欲求は自分の世界観・人生観に基づいて、「あるべき自分」になりたいと願う

第6段階の自己超越は見返りを求めず自我を忘れてただ目的のみに没頭する

アドラー心理学

他者の評価を気にかけず、他者から嫌われることを怖れず、承認されないかもしれないというコストを支払わないかぎり、自分の生き方を貫くことはできない
健全な劣等感とは他者との比較のなかで生まれるのではなく、「理想の自分」との比較から生まれるものである

10.教育学 人の成長と深く関わる教育学

超重要事項、共通事項

教育とは

教育とは誰かから与えられるだけでなく、仕事に必要な最新の知識や技術を身に付けるために、あるいはより豊かな生活を送るために、常に「**自分自身を啓発する**」ものだと思う

自己啓発と幸せ

「自分自身を啓発する」ことが、幸せを感じる、幸せになることにとても係わりがあるように思う
それは知識や技術が高められより自分のものになるから
知識や技術が高められると、より自分の視野が広がって、多くの人と出会い、多くの経験をして、
更に多くのことを学んで、**幸せを感じる確率が高くなる**と思う。

教育勅語

東日本大震災はその廃れたと思っていた道徳心や倫理観がまだまだ日本人の心の中にDNAとして立派に生きていることを私たちに実感させてくれた。震災に立ち向かった人々の中には、道徳心や倫理観を大切にした戦前の教育を受けたおじいちゃんやおばあちゃんから息子、孫へと継承された「**日本人の心**」があったのだろうと思う。それを培ったのは、戦前の「修身」教育であり、「修身」の骨格をつくった[教育勅語]だったと思う。こうした心の教育があって初めて、相手への思いやりや礼儀正しさ、秩序を守る心などが育まれたのではなかったのか。

11. 文学 文学は生きることを教えてくれる

超重要事項、共通事項

文学は「自分の人生の物語を書き換える」ことができる

文学を読むことによって、到底自分の「生の経験」としては味わえないことをそれも短期間に経験でき、自分のことのように考えることができる
それは、仏教でいう「四苦八苦」の死、老、病、または、別れ、欲求が満たされない等、普段経験したことのないようなことが、突然起こったが場合、文学による経験がものをいうと思う

文学は絶望に陥った時の救いになり、**人生、心の支え**になると思う

文学はもの言わぬ神の意志に言葉を与えること

芹沢光治良先生は文学を通して「**人間の生き方**」を教えてくれた
神は人間が幸せになること、人間的に生きることを望んでいる

光治良先生はその声を聞こうとしていた

幸せの条件は人間的に生きることを考えていた

光治良先生は人間的であることを追求し

- ・人間の生き方
- ・世の中のあり方

を真剣に考えて文学にしてきた

人間、その心 科学的に「心」とは何か

人文科学の宗教は絶対的な価値として「神・教祖・教義」を掲げ、その教えを信じることによって真理に近づこうとしている
近い将来シンギュラリティー(2040年前)により、この心理は膨大なデータをAIに解析させることによって得られると思う
宗教はとても神秘的で神々しいものだが根本はやはり人が作ったもの
ファジーな部分も多々あり、現在はファジーな人間しか理解(理解したつもり)できないが、シンギュラリティーにより人間
になったAIならば新しい宗教を想像できると思える

最後に

前代表の故和田安弘様に改めて感謝申し上げます。
2013年12月芹沢光治良朗読会 & ミニコンサートにて初めて
お会いさせていただきました。
その後、愛好会に入会させていただき大変お世話になりました。
初めてお会いした時から、おやさしく、かつ思慮深い人間味を感じ
させていただきました。



2013年12月13日



2019年7月20日